

[論文]

## 保育者養成校における充実した運動遊びの模擬保育に関する一考察 実践後の振り返りシートの作成に向けて

幼児教育学科 准教授 塩崎みづほ

A study on the practice of fulfilling simulated childcare for exercise at a childcare  
educational institution  
Toward to creation of a retrospective sheet after practice

Mizuho Shiozaki 2020

キーワード：運動遊び、模擬保育、振り返り、保育者養成校、  
Key Words : Exercise, Simulated childcare ,Looking back,  
Childcare educational institution

要約：本論文は、幼児の運動遊びの模擬保育における振り返りの活動に着目し、その方法と効果的な評価・コメントシートの作成について検討することを目的としている。模擬保育実践後、実践した学生は、仲間が撮影してくれた自分の実践動画、幼児役として活動を行なった学生の評価・コメントシート、担当教員の講評を踏まえてレポートにて省察した。授業のまとめとして、模擬保育の活動を振り返り、幼児の運動遊びのねらい、指導の際の大切にすべき事項等についてグループディスカッションを行った。模擬保育後の振り返りは非常に重要な活動であり、個人、グループ、全体での討議、さらには保育者役、幼児役それぞれの視点を踏まえ、丁寧に意見を共有することで指導者としての学びが深まることが確認された。

Abstract (English) : The purpose of this study is to discuss the methods and effective evaluation sheet for reflecting simulated exercise of children. I reflected on it after practicing mock childcare, the trainees who practiced it will report on their own practice videos taken by their peers, the evaluation / comment sheet of the students who acted as children, and the comments of the teacher in charge. As a summary of the lesson, we look back on the activities of simulated childcare and hold I evaluate trainees performance a group discussion on the aims of exercise for young children and important matters when teaching. Reflection is a very important activity, and it is possible to grow as a leader carefully sharing opinions based on individual, group, and overall discussions, as well as the perspectives of each of the instructors and children's roles.

## 1. 問題の所在と研究の目的

本学では、幼児教育学科 2 年生の通年授業として「幼児体育」が必修科目として行われている(令和 2 年度よりカリキュラム変更に伴い廃止となった)。幼児体育の授業の目的の一つには、「運動遊びの意義とその内容を理解し、子どもの発育発達に応じた指導ができるようになること」がある。運動遊びを展開することができる保育者の育成を目標に、様々な題材を実技として実践し、その後指導法についての講義を行い、その中で指導案作成、さらには模擬保育の実践といった内容で取り組んだ。

乳幼児期は、目覚ましい発達をする時期であると同時に、多くの興味関心を持つ時期でもある。運動欲求も高く、運動することで心の安定を図ることができる。昨今では、体操専門の先生が保育所や幼稚園などで指導を実施している園も多い<sup>1)</sup>。しかしながら、子どもと共に生活し、多くの時間を過ごしているのは、保育者である。運動を遊びの中に取り入れ、目の前にいる子どもたちの興味関心を察知し、発達を考慮して展開できる保育者の育成は、必要であるとする。幼児期の体力・運動能力の低下が指摘されるようになってかなりの時間が経っている。中教審では、幼稚園から高等学校の学習指導要領の改善について、「課題を踏まえて、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図る」とし、課題を 4 点あげている<sup>2)</sup>。運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向、子どもの体力低下傾向が深刻、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例が見られる、学習体験のないまま領域が選択されているのではないかと、といった課題から改善事項を絞り込んでいる。幼児期運動指針における「運動の行い方」を見ると( )内は体育科での改善事項)、1) 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること(生涯にわたって運動に親しむ資質能力の育成)、2) 楽しく体を動かす時間を確保すること(体力の向上に向けた指導の充実)、3) 発達の特性に合った遊びを提供すること(健康な生活を送る資質や能力の育成)を挙げている。1 日の身体活動を様々な遊びを中心に毎日 60 分以上楽しく体を動かすことが望ましいとしている。これは、保育所や幼稚園だけではなく家庭や地域での活動も含めて確保していくことが望まれている。保育所や幼稚園において、体操の時間のみでなく、体を使った遊びの展開を保育者が実践していくことがより必要とされているといえる。

さて、本授業では子どもたちと体を使った遊びの実践を授業の中で行うことで、現場に出た時に自信を持って保育活動に取り入れることができると考え、模擬保育を行っている。体を使った遊び、すなわち運動遊びは、教科では体育に位置づけられることから、体育における模擬授業についての先行研究を見ると、教員養成課程において、体育の模擬授業実践は積極的に展開され、それらの授業についての学習効果が報告されている<sup>3)、4)</sup>。模擬授業を行う目的として、指導技術の習得、省察する力の養成、体育授業に必要な知識の習得に有効であるとしている<sup>5)、6)</sup>。体育授業に必要な力ということにその特徴が見られ、さらには、模擬授業の教師役だけではなく、生徒役の学生にとっても学びのある活動であることも報告されている<sup>7)、8)</sup>。

模擬保育の成果、意義について言及した研究も報告されており、体を使った遊びの保育活動においても、方法、教材、自己評価など内容は様々である<sup>9)、10)、11)</sup>。身体表現活動の模擬保育後の

振り返りの重要性について高原<sup>12)</sup>は、学生の指導技術の向上に有効であることを示唆しており、個人の振り返り、グループでの振り返り、全体討議といった一連の過程が学びを深め、指導力向上へ繋がることを報告している。高田<sup>13)</sup>は、先生役、幼児役、観察役の学びの傾向の特徴について見出し、それぞれの役割における学びがあることを報告している。

本授業での模擬保育においても、実践した学生自身の振り返りはもちろん、幼児役として参加している学生が、その保育活動で何を心得、どう評価するか、保育者としての実践は1回であっても、仲間の保育活動は数回幼児として体験することを考えると、その時間をいかに有効に使うことができるかを考える必要がある。その一つとして、模擬保育実践後の振り返りを充実させることで、学びが深まる点に着目した。そこで、限られた時間において学生が記入しやすくかつ、自己省察として活用することのできる評価・コメントシートの作成が必要だと考えた。本研究では模擬保育の効果的な振り返りを行うことのできる、評価・コメントシートを作成するための一資料を得ることを目的とする。

## 2. 研究方法

### 2-1 対象者

本学幼児教育学科 1 部 2 部 2 年生「幼児体育」履修学生 193 名

### 2-2 実施期間

令和元年 10 月 3 日～令和 2 年 1 月 20 日

### 2-3 対象授業の概要

#### 2-3-1 対象授業の内容

本授業は、通年で開設されている。授業の 1～14 回までは、様々な運動遊びの実技を通して、それらの活動を展開し工夫することを体験していく。学生たち自身が運動遊びの楽しさを体験することで、固定概念にとらわれず、様々な発想で体を使った遊びを提案していくことのできる力を育てたいと考えているためである。後半に入る 15 回目以降からはそれぞれの指導法について学び、指導案の作成、模擬保育の実践といった内容で授業を実施している。主な内容は表1の通りである。

#### 2-3-2 模擬保育の方法

模擬保育の方法は、3～4名のグループに分かれ、1人ずつ書いた指導案をもとに、実施したい内容をグループ内で話し合い、新たにグループで指導案作成をし、実践するという流れで行った。模擬保育の活動時間は、ウォーミングアップから主活動までを 20～25 分とし、時間内に行うことの大切さを伝えた。指導案には、使用用具、環境構成図、保育者の立ち位置、ルール、時間配分、回数など、運動遊びにおける指導時の必須配慮事項の記入を課した。作成後は教員が添削し、数回の書き直しを経て実践となる。指導案完成後、実際に場を設定し本番通りに言葉かけも含めてリハーサルを行う時間を設けた。また、3～4名のグループのため、1人が全て説明するのではなく、メンバー全員が必ず1回は活動を進めるメインの保育者役を行うことを必須条件とした。それ以外の時は、サポート保育者役として、環境設定や、音響役、子どもを見守る役など、人数と活動状

況に合わせたサポートができるよう工夫することとした。幼児役の学生の中から1名が記録係となり、模擬保育の様子を動画撮影した。

表1 授業内容			
回	内容	回	内容
1	ガイダンス	14	身体表現遊び②
2	鬼遊び	15	身体表現遊びの指導法
3	米袋を使った遊び	16	指導の言葉がけについて
4	フープ	17	身体表現遊びの指導実践
5	縄を使った遊び	18	グループ分け
6	マットを使った遊び	19	指導案作成
7	新聞紙を使った遊び	20	練習
8	ボールを使った遊び	21~26	模擬保育とディスカッション
9	巧技台を使った遊び	27	模擬保育のまとめ
10	指導法の講義	28	運動会について
11	指導の目的、内容	29	実践
12	指導案作成	30	振り返り
13	身体表現遊び①		

### 2-3-3 振り返りの方法

#### (1) 保育者役、幼児役それぞれの振り返り

模擬保育実践後、保育者役の学生(以下、保育者役)と、幼児役の学生(以下、幼児役)とそれぞれ別々に振り返りを記入する時間を設けた。

保育者役の学生たちは、良かった点、課題点についてグループ3名で話し合い、保育者役の振り返り個人レポートの裏に話し合った観点を簡潔に記入した。幼児役は、担当教員が予め作成した評価・コメントシート(以下、幼児役シート)(図1)に以下の5点について記入し、ホワイトボードへ貼り、クラス全員が閲覧できるようにした。①流れ、②声の大きさ・速さ、③言葉かけ、④保育者の動き、の4つの観点について、とても良い、まあ良い、がんばろうの3段階で評価をさせた。⑤コメント欄には、良かった点、工夫した方が良い点について自由記述することとした。活動の所要時間はおよそ5分であった。

活動名			
流れ	声の大きさ 速さ	言葉がけ	動き
コメント			

図1 幼児役の評価・コメントシート(幼児役シート)

## (2) グループディスカッションと講評

上記(1)の振り返り活動後、グループディスカッションを行った。保育者役の3名が1人ずつ3つのグループに分かれ、幼児役も3グループに同じくらい的人数になるように分かれ、保育者役の振り返りと、幼児役シートの意見共有を踏まえ討議を行った。その後、担当教員が講評をし、本時の模擬保育のまとめを行った。所要時間は、10～15分ほどであった。

## (3) 保育者役の振り返り個人レポート

保育者役は、個人で振り返りレポート(以下、保育者レポート)を記入することとした。個人の振り返りの資料として、以下2点を渡した。1点目は、記録係がipadで撮影した動画、2点目は、幼児役シートである。それらも活用しながら、①指導案作成・指導練習を振り返ってのコメント、②実際に指導をした自評(動画を見ての振り返りも入れる)、③全体を通しての感想について、の3項目について個人でまとめ後日提出した。

## (4) 模擬保育、指導法のまとめ(まとめのシートを用いて)

授業の27回目に行った模擬保育のまとめでは、全模擬保育活動を振り返り、運動遊びの指導法のまとめのグループディスカッションを行った。ここでは、実践グループのメンバーが分かれての3グループを作成し、活動内容の違いによつての難しさや配慮点の違いなどについてまとめのシートを用いて意見交換をした。まとめのシートについては、高田ら(2017)<sup>13)</sup>の教材開発の視点からの項目を参考として以下の4項目を挙げた。①記憶に残った活動、②実践してみたい活動、③運動遊びで1番ねらいにしたい内容、④指導において1番大切にしたい内容とし、グループで意見を出し合い、まとめのシートに記入をし、最後に発表を行い、クラス全員で意見の共有を図った。それらを踏まえ、担当教員が模擬保育の講評と、運動遊びの指導法のまとめとした。

## 2-4 研究対象項目

本授業の18回目～27回目において行った活動より次の①～③の3点を研究対象とした。

- ① 模擬保育を幼児役として受けた学生の幼児役シート
- ② 模擬保育実践後の保育者役のレポート

上記①、②については、幼児教育学科 2 部の 2 回目に実践を行った「風船を使った遊び」と 6 回目の「フープを使った遊び」の保育者として実践した学生のレポート 6 名分、その活動を受けた幼児役シートを研究対象とした。風船は、他のグループで行っていない活動であったこと、フープは人気のある活動であったことからこの 2 グループを抽出した。

### ③まとめのシート

各クラス 3 グループに分かれたため 18 グループのシートを研究対象とした。

## 3. 結果

### 3-1 幼児役シート

3 段階評価は 2 グループとも全体的に良い評価であった。(表 2)

	流れ	声の大きさ	言葉かけ	動き
風船(n=15)	2.8	2.4	2.7	2.6
フープ(n=25)	2.9	2.6	2.7	2.9

コメントの自由記述では、よかった点については、保育活動の流れのスムーズさ、運動量の確保、遊びの展開についての記入が 2 グループとも多く挙げられていた。工夫した方が良い点では、安全配慮への気づきのコメントがみられた。(表 3)

	フープを使った遊び	風船を使った遊び
良かった点	・流れが良かった	・流れがスムーズだった
	・運動量も良かった	・運動量がちょうど良かった
	・いろんな遊びができて良かった	・色々なパターンがあつて楽しかった
	・子どもにたくさん話しかけていたのが良かった	
工夫した方が良い点	・準備運動をもう少ししっかり覚えてわかりやすくなった方が良かった	・もう少し声が大きくはっきりしていると良かった
	・リレーの人数を合わせる、勝敗の偏りを避けた方が良かった	
	・フープを持たせていると危ないので置いた方が良かった場面があった	

## 3-2 保育者役レポート

保育者役 of 模擬保育実践後の個人レポートより、多く挙げられていた意見を抜粋した(表 4)。

表4 保育者役の振り返り個人レポート

①指導案作成、指導練習を振り返って	指導案を書く際にルールや留意点などを考えて記入することで、どんな問題が発生するか予想できる。
	ねらいを明確にすることで、ねらいに沿った内容になるよう書くことができた。
	指導案に環境構成図を明記することで、スムーズな流れになる。
	指導案に沿って練習することで、改善点、配慮点が明確になる。
②実際に指導をした自評	ウォーミングアップでは、声かけをしながら行う必要があった。
	声の大きさ、子どもの注目を集める声かけを考えておく必要があった。
	流れ、立ち位置などを配慮しながら行うことができた。
	練習したものの、楽しさが伝わらない、時間配分の難しさを実感した。
	自分が次にどのように動くか、どう配慮するかなど、活動や子どもの動きに合わせて行動できるようにしていく必要性を感じた。
	簡潔に、子どもたちにわかりやすくルールなどを説明する言葉かけが難しかった。
(動画を見て)	動画を見ると、ポーっとしているように自分が見えた。もう少し、子どもと楽しんだり、積極的に声かけをすればよかった。
	保育者の3人の立ち位置がよくなかった。自分の声が高すぎて聞き取りづらいこともわかった。また、表情が暗いと思うところや、言葉かけも気をつけたほうが良いものがあった。自分の動きが見れてよかった。
	エビカニクスをやっている時、自分がしっかりと踊ることに必死で、子どものことを全然見れていないのがわかった。
	私が常に笑顔で保育している様子が見れて、良い点だと感じた。怪我などに留意できる言葉かけがあると良いと思った。
	ざわついてる中で話し始めてしまっている場面があり、保育者との距離が遠いより聞こえないこともあり、話を聞くことのできる空間づくりが大切だと思った。
③全体を通しての感想	指導案作成、指導までやりきれて達成感があった
	幼児役の仲間から、改善点などを言ってもらえるのはとても良い経験になり、自信になった。
	説明が難しく伝わらない、細かすぎても伝わらない2つの意見をもらったので、どうしたら子どもたちが理解できるかを保育者が判断するためには、子どもたちの表情や様子を見て声かけするなど、話し方の工夫が必要だと感じた
	保育者間の協力、意思疎通の大切さを実感した
	今回の反省点、課題点を将来に活かしていきたい

## 3-3 まとめシート

## 3-3-1 印象に残った模擬保育の活動と実践したい活動について(表 5)

まとめのシートをもとに、1 クラス 3 グループに分かれ、6 クラス分の合計 18 グループのシートの結果である。

題材としては、リレーのような競争を伴った遊びの人气が高かった。活動量の多さも理由として挙げられているのが特徴的である。その他、指導の流れが良い、声かけが良いといった保育者の進め方が良かったから印象に残ったという理由も多かった。

表5 印象に残った模擬保育の活動名と理由 ( )内は回答数

内容	理由
フープ(4)	指導の流れが良い、自由度が高い、簡単でわかりやすい
鬼ごっこ(1)	ルールが色々あってずっと楽しめた、
三色鬼(1)	複雑なルールがあることでチームワークができる。作戦会議も良い
しっぽとり(1)	洗濯バサミを使うアイデアが良い
ドンジャンケン(2)	導入から主活動への流れが良かった。 身近なもので遊べる、みんなが参加できる
変身リレー(2)	体全体を動かせた、子ども自身で考えてできる、カードを使うのが良い
バナナリレー(2)	指導の流れが良かったつながりがあった、流れが良い、活動量もちょうど良い
引越しリレー(1)	テーマに統一性があった
障害物リレー(2)	コースが工夫されていた、いろいろな動きがあって飽きない
動物リレー(1)	四つ這い、カードを使うのが良い
新聞紙(1)	声かけが良かった
的当て(1)	初めての遊びだった
大縄(1)	声かけがよかった

## 3-3-2 実践してみたいと思った活動名とその理由(表 6)

鬼ごっこの人気が高く、次いでフープ、新聞紙を使った遊びを回答する割合が高かった。その理由として、活動が様々に展開できるといった回答が多くみられたのが特徴的であった。



内容	理由
フープ(5)	模擬保育が良かったから
	活動が色々できるから
	普段と違う使い方があることを伝えられる
	色々な遊びがあるから
	色とルールで頭を使って体を動かすことができるから
鬼ごっこ(2)	種類が多い、用具がなくても良い
	いつでもどこでもできる。人数に制限がない。種類が多い
しっぽとり(3)	ルールを色々と展開できたから
	普段と違う遊び方だったから
	スズランテープと洗濯バサミのしっぽが良かった
だるまさんが転んだ(1)	用具などいらないから
新聞紙(3)	身近なものだから
	0歳から5歳まで楽しめる
	いつでも用意できたくさんの遊びを展開できる
新聞玉入れ(2)	運動会前の導入に良い
	新聞で自分たちでボールを作るところからやるのがいい
障害物リレー(1)	いろいろな体の使い方ができるから
リレー(1)	全員参加できたから
引越しリレー(1)	統一性があったから
ボール遊び(1)	遊び方が色々できる。

### 3-3-3 運動遊びにおいて1番のねらいにしたい内容とその理由 (表7)

結果を「友達との協力(協調性)」、「運動能力」、「ルールを守るなどの社会性」と3つに大別した。運動遊びでしか養うことのできないものが、運動能力である。この点を抑えられていることがわかると同時に、ルールを守るから楽しくなること、といった社会性もねらいとして多く挙げられていた。

### 3-3-4 運動遊びの指導において一番大切にしたい内容とその理由(表8)

結果を「声かけ」、「環境設定」、「事前準備」の3つに大別した。説明の仕方、子どもへの配慮の声かけ、活動の楽しさが深まる声かけなど、様々な声かけについての回答が挙げられ、声かけへの回答がもっとも多かった。

表7 運動遊びにおいて1番のねらいにしたい内容と理由

内容	理由
友達との協力	人間関係を築く力になる
	友達との協力、自分の役割を考えるから
	役割分担ができる、運動遊びをきっかけに新しい仲間ができる
	運動遊びを通して仲間との関わりが深められるから
運動能力の向上	運動好きになるため、
	遊びを通して運動能力を上げる
	怪我予防、色々な運動ができるようになることで楽しさを感じれるか
	運動嫌いをなくす
	運動機能の発達を促す
	運動遊びでしか養えないから
ルールや決まりを守る	集団で協力して活動することによって集団行動の大切さを学ぶ
	自分の体を守る力をつけるため
	社会性を育てるため
	社会性を育て、仲間と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるから
	協力、コミュニケーションをとることを学べるから、意欲が出るから
	自分で考えて表現することにつながるから
	周りを見る力が育つ
社会性が身につくことで生活にも役立つから	
	楽しく体を動かす

表8 指導において1番大切にしたい内容とその理由

内容	理由
声かけ	活動に上手に参加できていない子や意欲的でない子どもへの配慮
	説明をするときには必ず保育者の周りに集める
	怪我や事故防止の声かけ。保育者の声の抑揚をつける
	集めること。簡潔に分かりやすく・全員がルールなどを理解して活動へ取り組めるようにする
	子どもの好きなもの、苦手なものを見つける
	子どもたちが理解し、活動を楽しめるような説明をすることが大切
	活動に対する理解が深まったり、雰囲気明るくなるから
	子どもが主体的に活動するために必要なことだから
環境設定	運動が嫌いな子どもでも体を動かすようになるため
	安全面の配慮
	安全に楽しく遊びに入れるように設定する
	運動の苦手意識を持たせないため
	怪我をしないのが一番。危険なことを避けるだけではなく、事前に注意をする声かけをすることで遊びの幅が広がる
事前準備	安全への配慮、保育者も楽しむ。臨機応変な対応(ルールを変えるなど)
	安全に行い協力することを促し、子どもたちが楽しめるようにするために大切だから
	子どもの実態を知り、ねらいをもって計画を立てる

#### 4. 考察

##### 4-1 幼児役シートについて

幼児役としての良い気づき、さらには安全配慮についてのコメントがみられ、一定の効果があることがわかった。また、指導の流れや内容、運動量、声かけなど、幼児、保育者双方の視点から、観察し述べられており、幼児役シートがあることで振り返りがスムーズに行えている様子が窺えた。結果を踏まえ、幼児役シートの改善点も見出された。運動遊びの必須事項である環境構成、安全配慮、運動量、説明の仕方といった項目については、3段階評価で表す方が効率よく記入でき、さらに自由記述に時間を回すこともできるため、丁寧なコメントにつながると考えられる。よって、3段階評価での記入項目を増やし、より詳細に評価できるようシートの改善が必要だろう。

##### 4-2 保育者役レポートについて

動画を用いての振り返りは、自分の指導を客観的に見ることができ、良い点、課題点に気づくという一定の効果があることが窺えた。また、仲間からの評価、コメントの共有も指導者としての学びが深まること、実践することで自信ができて、子どもたちと実践してみたいという意欲へ繋がることから振り返りとして必要な事項であると考えられる。自身を客観的にみる材料を踏まえ、個人でじっくり振り返る時間は、模擬保育後の活動として有効であろう。一方、レポート内容は、自評の観点をより細かくする方が、振り返りの視点が定まり、記入しやすくなることから指導者としての気づきと学びが深まると考えられる。そこで、自分の実践が他者からどう評価を受け、自分の評価とどのような点に違いがあるかを見つめ直すこともできることから、幼児役シートと保育者役レポートでの評価項目を同じ内容にすることも一考の余地があるだろう。レポート内容を見直すことも課題の一つである。

##### 4-3 まとめのシートについて

印象に残った活動では、指導の流れがスムーズだった活動が好印象であり、保育者の進め方が良かったので印象に残っているという理由が結果から見てとることができた。また、リレーなど全員で楽しめて、競争の要素のあるもの、運動量の高いものの人気があり、学生として楽しむことができたという点が特徴的であった。一方、子どもと実際に行ってみよう活動では、活動が様々に展開できる、身近なものを使っている、といった観点から選んでいると見ることができ、バリエーションや発達段階を考慮できる広がりのある活動が良いということへの気づきにつながっていると推察できる。題材として取り上げる際、展開が工夫できるものが保育現場では有効であること、また、楽しい活動にするためには、流れがスムーズであることが大切であること、といった点に気づくことができる活動であるため、振り返りの視点として妥当な内容だったと考えられる。

運動遊びでしか養うことのできないものが、運動能力である。この点をしっかり抑えながらも、仲間と楽しさを味わう体験が多いこと(協調性)、ルールを守るから楽しくなること(社会性)、といった観点に気づけていることから、仲間と意見を交わすことの有効性があることが推察できる。一方、運動遊びの中で養いたい知的側面への気づきが見られないため、指導の中でその点の気づきがで

きる活動と、講義をしていく必要があるだろう。

指導において大切にしたい内容では、「声かけ」が最も多く、子どもが主体的に活動する援助になること、意欲的に取り組むきっかけになること、活動に対する理解や楽しい雰囲気を作ることへ繋がるものであることに気づいたと考えられる。模擬保育を実践することで、声かけの難しさを感じると同時に、子ども役として取り組んだ際に、褒めてもらえて嬉しかったこと、声かけによってやる気が出たことを体験したことが関与していると推察できる。

まとめのグループディスカッションは、今までの模擬保育を振り返り、題材選びの視点、運動遊びの意義、指導における留意点を再確認することができる良い活動であった。模擬保育を行った意義、そして振り返りの重要性にも気づいているとみることができ、この活動も重要であることが推察された。

## 5. おわりに

模擬保育において振り返りは重要な活動であり、個人、グループ、全体と意見を交わすことでより指導者としての学びが深まることが確認された。また、保育者役、幼児役双方の視点を踏まえて保育活動に参加することを認識できるような振り返りの方法を、今後も検討していくことが大切だろう。今回の研究から、幼児役シート、保育者役レポートの内容についての課題点が見出されたので、その点を踏まえ、より効果的な評価・コメントシートを作成し、実践へと進めていきたい。

## 参考文献

- 1) 日本教材文化研究財団編 「調査研究シリーズ「これからの時代に求められる資質・能力を育成するための体育科学習指導の研究」日本教材文化研究財団,2018
- 2) 文部科学省「学校体育と幼児期運動指針の概要について」(2012年)  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002q9dz-att/2r9852000002q9jp.pdf>  
(最終アクセス日:1月26日)
- 3) 藤田育郎、池田延行「体育科模擬授業の効果的な実施方法に関する検討」国土舘大学体育研究所報(29)2010,p.95-99
- 4) 木山慶子「教員養成における模擬授業の学習成果の検討-学生による授業分析を用いた省察から-」群馬大学教育学部紀要(51)2016,p83-93
- 5) 木原成一郎編著「教師として育つ-体育授業の実践的指導力を育むためには」明和出版,2010
- 6) 田村元延「保育者養成における「健康系」授業の模擬保育指導方法の検討-先生役、幼児役、観察役の学びの傾向に着目して-」常陽大学短期大学部紀要(48)2017,p.81-90
- 7) 小橋川久光他「体育教材研究における学生の自己評価、他者評価に基づく授業実践の分析(2)～模擬授業を終えて～」沖縄女子短期大学紀要(26)2013.10,p.35-46
- 8) 周東和好「教員養成における体育科模擬授業に関する実践的検討-振り返りの方法と効果

- について-」新潟体育学研究(30)2012,p.9-14
- 9) 坂口将太「運動遊びを用いた模擬保育における学生の環境構成に関する一考察」聖和短期大学紀要(1)2016p.27-3
- 10)中川希望「保育内容研究IV（健康）における模擬保育の検討」函館大谷短期大学紀要(34)2020,p.32-40
- 11)桐川敦子他「模擬保育形式の授業における学生の体験-運動遊びの実践を通して-」日本女子体育大学紀要(48)2018,p.179-186
- 12)高原和子他「保育内容（表現）身体表現指導における模擬保育後の振り返りに関する一考察」福岡女学院大学紀要人間関係学部編(17)2016,p.23-28
- 13) 高田佳孝、山中愛美「幼児体育において学生による模擬授業の検討～教材開発の観点から～」夙川学院短期大学教育実践研究紀要（10）2017,p.29-38
- 14)杉原隆、河邊貴子編著「幼児期における運動発達と運動遊びの指導」ミネルヴァ出版,2015